

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

NITS・教職大学院 等	実施機関：広島大学教職大学院学校マネジメントコース 連携機関：安芸郡3町（府中町・坂町・熊野町）教育委員会
	事業名： 「【NITS・広島大学教職大学院コラボ研修】安芸郡3町スクールリーダー育成研修」
コラボ研修プログラム	研修等名：【NITS・広島大学教職大学院コラボ研修】 「令和4年度安芸郡3町スクールリーダー育成研修～所属校の課題解決と受講者の資質・能力の向上とを目指したアクションリサーチ型研修～」
支援事業報告書	開催日時：令和4年6月22日～令和5年2月8日 全5回 第1・4・5回 14:00～16:30、第2・3回 13:00～16:30 開催場所：広島県安芸郡熊野町役場、府中町くすのきプラザほか 参加人数と属性：教職大学院教員2人、教育委員会職員5人、受講者17人、教職大学院修了者2人（合計26人）

内容：

1 広島県教育委員会並びに広島県内市町教育委員会が実施している研修は特定の教科・領域や指導技術を扱うものが中心であり、各校の学校教育目標や経営目標の達成を意識した研修は行われていない。本研修は年間5回の研修を通して、受講者が所属校の課題解決に取り組む過程を通して成長を目指す「（目標管理と連動した）アクションリサーチ型研修」である。また、「広島県教員等資質向上指標」の実働を含め、教員免許更新制が発展的に解消された後の教員研修について、教職大学院の役割について一つの提案をするものである。複数の教育委員会が合同で実施するのは、今回が初めてである。

2 研修の具体

(1) 8月上旬までの第1・2回では教職大学院教員が「カリキュラム・マネジメント」と「学校組織マネジメント」の講義・演習を行い、所属校の課題解決のための基本的な理解を図った。演習「所属校の現状把握とビジョンの形成」では所属校及び受講者自身のSWOT分析を通して、9月から取り組む実践を構想することとした。

(2) 8月第3回では教職大学院修了生2名の実践発表（写真）を受け、教職員がビジョンを共有することの大切さや難しさ、学年を超えた研究推進の工夫を学ぶと共に、PDCAによる実践の改善やファンリテート必要性を学んだ。



『若い先生や転職してきた先生が、上手く学校で活躍できていますか？学校行事でも教育研究でも、分からないことや困っていることを言える機会があることが大切ですね。各年会や校内研修だけではなく、お茶を飲みながら気楽にワイワイ・ガヤガヤしゃべる、「ワイガヤの会」をやりました』（実践発表の一部）

また、第2回後半からは2グループに分かれ、教職大学院教員とともにグループディスカッション「所属校の課題解決に向けての戦略」を行った。受講者は自分が計画している実践を発表し、他の受講者からアドバイスをもらい、計画を修正・具体化した。

受講者の計画は実に様々だったが、ある受講者は教務主任として『つなぐ&のぼす』をテーマに教職員や保護者などの人間関係をつなぎ、児童の思考力を伸ばす実践を、また、ある受講者は学年主任として『教員も生徒もチーム力アップ』をテーマに集団で取り組むことの良さを実感できる活動を工夫するなど、いずれも所属校や所属学年の課題と受講者の役割との関係を意識したものだ。

(3) 11月の第4回も2グループに分かれて、9月からの実践をスライドで発表し、他の受講者からアドバイスやコメントをもらい、以降の実践に向けての改善計画を作成した。この回で他の受講者の発表を参考にしたり、意見交換をしたりすることを通して、所属校・学年の課題解決への道筋をより明確にし、リーダー・マネージャー・メンターとしての役割を意識できるようになった受講者が多かった。

(4) 2月上旬の第5回は受講者それぞれが実践の成果と課題についてスライドで発表を行った。この回も他の受講者からアドバイスやコメントを受け取り、以降や来年度の取組について、それまでの実践を省察するとともに、新たな構想を検討する手がかりを得た。

『教務主任は学校の要。教員と教員をつないだり、保護者と学校をつないだりすることはとても大変だけれど、私も頑張る気持ちになりました』、『自分でやってみれば早いけれど、それでは若手が育ちません。ぐっと我慢して見守りましょう』、『先生の取組や苦労されている様子を見て、しんどいのは自分だけではない、と思えるようになりました。一緒に頑張ります』（発表に対するコメントの一例）

最後は教育委員会の職員から、受講者一人一人の発表に対する指導と講評が行われた。

3 教職大学院教員は受講者がプレイヤーではなく、リーダーやマネージャー、メンターとしての役割を意識して取り組むように働き掛けた。教育委員会職員は受講者の様子を見ながら、要所所で声をかけようとした。

成果：

- 1 受講者とその所属長に、広島県教員等資質向上指標（30 項目）を用いて事前・事後アンケートを4件法で実施して比較した。その結果、ほぼ全ての質問項目で肯定的評価が向上しており、三つの大区分のうち、特に「組織マネジメント」で受講者が2.35から2.81に、所属長が2.68から3.06へと向上した。
- 2 事後アンケートの自由記述では、受講者が「学校全体の強みと弱みを意識しつつ、自身の取組を考え実施するだけでなく、状況に応じて管理職や他の教職員と連携を図り、思いを聞きながら助言したり共に取り組んだりすることができました」、所属長が「学級経営だけでなく、学年経営を意識して取り組むようになり、校務分掌についても、学校全体を強く意識して取り組むようになった」と述べるなど、当初の研修のねらい通りの成果を得ることができた。

アイデアや工夫したこと：

- 1 研修前半で、受講者自身と所属校のSWOT分析を行い、所属校の課題を明確にし、自身のミッションと関連付けて課題解決のための戦略や戦術、具体的取組を計画出来るように設定した。
- 2 受講者の取組状況や工夫点などを教育委員会職員に伝え、学校への指導に役立ててもらおうようにした。
- 3 受講者の実践をまとめた資料集に、学校の特徴や学校経営計画を掲載することにより、「受講者の実践の理由や目的、目指す学校の在り方」が分かりやすくなった。

<写真・図など>



カリキュラム・マネジメントの講義・演習



学校組織マネジメントの講義・演習



ペアやグループでの協議



中間評価の際の発表



最終回の発表